

## 「感謝の心」 コロサイ 3：15

I 「感謝の心を持つ人になりなさい」：15。この手紙に、この箇所他に何回も「感謝」の箇所がある。感謝する事の大切さが分かる。「私たちは、いつもあなたがたのために祈り、…父なる神に感謝しています」1：3、「あふれるばかり感謝しなさい」2：7、「感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい」：16、「すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい」：17、「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい」4：2。なぜ感謝すべき？それは、感謝出来る為の神の恵みが、すでに溢れるほど与えられているからです！※パウロが、この手紙を書いた時、獄中にいても感謝を絶やさぬ姿に励まされる。1. 旧約聖書にも詩篇103：2で「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」とある。①自分に語り掛ける。「わがたましいよ」。深い御言葉。多くの試練、苦しみの中で、主の恵みを忘れ主の恵みが見えなくなり易い。だから私達は、自分自身に語りかけ励ます。「主をほめたたえよう。試練、苦しみはあるが、今日までの主の恵みを数えて感謝しよう！試練の中でも、主は恵みを与えてくださる！」と。主の良くしてくださった事、恵みを「何一つ忘れるな」。私達の弱点を見抜かれた御言葉。私達は、人のした悪は忘れず、主の恵み（人がしてくれた良い事）は忘れ易い。不平不満は、自然に出て来るが、感謝は、自分にこの御言葉を語り掛け、意識して、主の恵みを数える事が大切。ノートやディボーションノート等に記す事は、大きな恵み！※私の小さな実践の恵みの証し。「祈れないほど忙しい？」の著者も。※主の恵みを思い出し、数え、記して見ましょう。別紙かこのプリントの余白でもOK。この集会の後も、主の恵みを数え、書き加えて下さい。あふれる恵みに気付かされる。2. 103：3からの主の恵みで、最初に記されているものは、何？ここに深い意味が！「主は、あなたのすべての咎を赦し」：3。私達の咎、罪が赦されて、素晴らしい神との関係の回復、神と交わることこそが、最高の奇蹟的な恵みです！

II 感謝の敵とそれに対処する素晴らしい御言葉。1. 人と比べ、自分にないものを数え、ねたんでしまう→対処：自分にないものではなく、神から与えられているものを数え、感謝し、それらを神が望まれる事の為に喜んで用いて行きたい。「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもの（神から与えられているもの）で満足（感謝）しなさい。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』ヘブ13：5。2. 実は、私達は、すべての数えきれないほどの多くのものを神からいただいているが、それらを「当然、当たり前」の心でとらえ、感謝の心がなくなってしまう→対処：「あなたがは、何か、もらったものでないものがあるのですか」Iコリ4：7。私達は、裸で生まれてきた。命も、体も、今与えられている物質的な物、霊的な豊かな恵み、すべては神が恵んで下さったもの。当然、当たりの心、態度を本日、悔い改めたい。神は、その真実な悔い改めを喜ばれる。※「選ばれてここに立つ」佐藤彰師著の紹介。P43～「上げすぎた『幸せのハードル』。今このような経験（震災、原発故に自宅、教会に戻れず、着替え、お金もなく出発した流浪の旅）をしてみて思うことは、かつて…物はあるけれど、「あれがない、これがない」と考えていました。「隣の家にはあれがあるのにうちにはない」「あっちの家はああなのに我が家はこうだ」などと考えてきました。でもそれはもうやめましょう。周りをキョロキョロ見回すのはやめましょう。戦後、みんなで「幸せのハードル」を上げすぎてきたのだと思うのです。震災で、私達のハードルはいきなりゼロまで下がりました。…シャワーを浴びて感激…暖かい食べ物をい

ただいた時も…涙…布団に寝かせてもらって、本当に感激…子どもたちがお古のランドセルをいただきました。…子どもたちは嬉しそうに帰って来ていつまでもランドセルをしょったまま…お古でも幸せなんだね」※教会が与えられている事の感謝。祈り支えて下さる方々、礼拝できる会堂他、数えきれない恵みが与えられている事を当たり前ではないと自覚し深く感謝したい。何一つ、当然ではない。牧会者がいない教会、ゼロから開拓で集う信徒の方がいない教会、会堂がない教会、会堂があっても放射能の為に、そこで礼拝できない教会、色々な所を通っておられる教会、人々がおられる。主の守りを祈りたい。

3. 満足度のハードルを上げてしまう→対処：御言葉の教えに、自分の満足度を合わせる。欲張らず、基準を下げる。「満ち足りる心（一つ一つを心から感謝する心）を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また、何一つ持つて出ることできません。衣食があれば、それで満足すべきです」Iテモテ6：6-8。

4. 人への要求のハードルが、高過ぎる（程良い期待は人を励ます）。そうすると、いつも心に怒り（要求）が起こり、いらいらしてしまう。→対処：人への要求のハードルを下げる。まず、その人の現状、等身大を受け入れる。人は受け入れられて初めて、変えられて行くプロセスが始まる。神は、私達を、そのまま、まず受け入れて下さる。そして、主の姿に一步一步、変え続けて下さる。「さばいてはいけません（まず受け入れる事をせず、自分の高過ぎる要求で人を責めてはならない）。さばかれないためです」マタイ7：1。

5. 自分の思い、視点で、感謝とそうでないものを簡単に分けてしまう心→対処：苦しみにも、主にあつて尊い価値がある事を学び、知り続ける。「苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし、今は、あなたのことばを守ります」「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました」詩119：67、71。苦しみは、自分の弱さを教え、神に心から拠り頼むことを教える。苦しみは、苦しんでいる人を思いやる者、寄り添う者に変える。※すべてが理解できなくても。イザヤ55：6-9。苦しみから学んだ事を記してみましょう。

III 感謝から生まれるもの。1. まず、罪深い私達を愛して下さった神への愛が増し加わる。神に、心が近づく。2. 主が愛しておられる教会への愛が与えられる。3. 家族、知人、友人、隣人への愛が、与えられる。要求のハードルを下げて、本日から、神様に対してと同時に、人にも感謝を示したい。本日から、「感謝の心」をいただきつつ祈りつつ感謝を言葉で伝えたい。互いに。私は、母と妻に。子に。何かあったの？と聞かれる？なくして分かる、有り難さ。時があるうちに感謝を！「震災を通して、当たり前のように明日があると思っていた思いが打ち砕かれました。明日があるか分からない。大切な人に、明日があると思わないで今日、大事な言葉を言いましょう」（佐藤彰師）。ありがとう。

4. 神ご自身を喜び、神のあふれる恵みを数え感謝する時、試練の中でも、私達に喜びが与えられ、そこから律法主義からではない、心から主を証しする伝道、宣教が生まれる！「しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は神なる主を避け所とし、あなたのすべてのみわざを語り上げましょう」詩73：28